

# 学習について

## アクティブ・ラーニング

**Q** 内気な性格の生徒の場合、「積極的に自分の意見を他者に伝える」「生徒同士で、教え合う」というような活動が苦手ですが、授業中、どのように取り組んでいるか心配です。

**A** アクティブ・ラーニングでは、積極性を求められているイメージが強いので、内気な性格で、自己表現が苦手なお子様をお持ちの保護者の方は、大変ご心配だと思います。しかし、今求められている力は、多様な価値観を認め合う力です。「相手の話を聞き」「自分の考えを伝え」「協働して新しいものを生み出す」力ということもできます。相手にも「聞く力・技術」を身に付けることが求められています。学習する中で、お互いに力を付け合うのがアクティブ・ラーニングとお考えください。  
授業は教員の指導の下で、生徒の個性に配慮して内気な生徒も活動できるように行われます。



古文の音読確認  
(国語総合 4回生)

英語の説明を聞いて英単語を答える  
(コミュニケーション英語Ⅰ 4回生)

具体的には、「表現」活動に慣れていくために、教科の特性を生かしながら段階的な活動を取り入れています。

- (例1) 授業の初めなどに、全員が「朗唱」活動をし、声を出します。
- (例2) 二人組になって、暗記事項の確認活動を行います。
- (例3) 二人組で、予習してきたことを確認します。
- (例4) 考えの異なる友人のところへ出向き、1対1でお互いの考えを話し合い理解し合います。

- (例5) 少人数のグループで、与えられた課題に取り組み、代表が発表します。
- (例6) 個人で予習してきたことを、発表します。
- (例7) 他の生徒の発表に対して、自分の考えや質問を述べます。

**Q** 逆に、リーダー的な生徒や、その科目が得意など、個々（個人差のある）の能力を引き出すために先生方はどのようにアクティブ・ラーニングの授業をしているのですか？

**A** 「アクティブ・ラーニング」を「差をエネルギー源とする活動」と定義する考え方があります。今の自分にはない考え方を、他の生徒の活動や表現を通して発見し深い学びにつなげます。上記例のように、表現する機会をすべての生徒にできるだけ多く設けることで、個々の能力を引き出していきます。  
教科によっては、活動の中で自然発生的に、リーダー的な生徒が討論の進行役になることもあります。



絵本を読んで感想を言い合う  
(国語 3回生)

**Q** 生徒がアクティブ・ラーニングの予習として、家庭学習で出来ることはありますか？

**A** アクティブ・ラーニングでは、「社会が答えを模索しているような問題」に対して「自分の考え」を求められる機会が増えてきます。自然と多くの知識や考え方を予習で調べるようになります。  
そのため、ご家庭で保護者の方に質問することも増えてくると思います。保護者の方のお考えをお子様にお話しいただき、家庭で論議する機会を設けていただくことは、お子様の成長に必ずつながります。



クラス全員で朗唱  
(古典B 5回生)

**Q** アクティブ・ラーニングを学習に取り入れることで、中等の6年間を通して、これからの社会に必要とされるような力が身に付きますか？

**A** AI(人工知能)などの飛躍的な技術発展に伴い、仕事のあり方や社会が大きく変わろうとしています。新しい社会に対応するために求められる力の一つが「協働」する力とされています。お互いの意見を聞き、その中から最善の策を見つけ、つくり出し、実践する力といえるでしょう。その力を身に付ける方法の一つが、アクティブ・ラーニングです。



# サイエンス教育

**Q** なぜ、今、高校生が文系理系をバランスよく学ぶことが求められているのですか？

**A** 今、日本社会が理系の人材を求めていることが背景にあります。本校でも、現在理系進学希望の生徒が増えつつあります。そこで、6年間の教育課程を見直し、理系科目の単位数(授業時数)を増やし、高校の教科書内容を早めに終える速修体制を整えるなど、「サイエンス教育」(理系教育)に力を入れることで、理系に進む力を持った生徒を育てることをめざしています。



**Q** 中等では、プログラミングやコンピューターサイエンスを学ぶために、どのような授業が行われているのですか？

**A** 前期課程から、「情報技術」で、コンピュータを使った授業が行われます。  
前期課程では、アルゴリズムのソフト「アルゴリズムック」を用い、コンピュータ上のロボットが目的地まで到着するプログラムを作ります。ロボットが前進や方向転換し、無駄な動きがないプログラムをめざします。  
後期課程では、Scratch.html. などを利用することを計画しています。



# 部活動について

中等には、前後期合わせて運動部8、文化部8 計16とたくさんの部活があります。579名の生徒が参加している部活から代表して、6年間の部活を通して、経験したこと(得たものや育ったもの)をお話していただきました。

## 6回生 西本 竜之輔さん(野球部)

僕にとって6年間の野球部での活動は、青春そのものです。もちろん、きつい練習や仲間との衝突、思うように結果が出ない事もあり、何度も野球を辞めようと思いましたが、今は逃げずにやりきれて良かったと心から思います。部活動を通して、信頼し合える関係を築くための人との関わり方や常に明るく前向きに考える大切さと大変さを学びました。他にも、当たり前のように支えてもらっている家族のありがたみや、普段は気付けない新しい自分など、たくさんのことを部活動を通して知ることができました。本当に体力面でも気持ちでも困難が多かった6年間だったけれども、そこで得たこと全てが今の僕にとって大きな心の支えになっています。



## 6回生 繁田 由紀さん(演劇部)

私は昔から引込み思案でした。そんな私の心の中には自分を変えたい願望があり、ある日大きな声を出している演劇部の先輩の姿にあこがれ、1回生の途中から演劇部に入部しました。入ってからは演劇部の魅力にはまっていく毎日で、いつしか人前で演技する楽しさを実感し、少しずつ自分の殻を破っていました。後期生になって出場した大会では、メインの役をやらせてもらうことになり、毎日不安で一杯だったけど、練習では顧問の先生にとことん追い込んでもらい、最後まで演じきった時には、今まで感じたことのない達成感を感じ、初めて嬉し涙が出ました。私は、演劇を通して大きく変われました。このことを自信に持ち、これから夢に向かって頑張ります。



「途中入部もできるので、興味のある部活動があれば、是非、先生に相談してみてください。」

